

# 若桜鉄道の存続と観光振興を目指す



鳥取県東部でもひとときわ、豊かな自然に囲まれた山あいの一角に位置する八頭町の隼駅。著しく進む少子・高齢化と、今や家族1人に1台ずつという車社会の台頭によって乗客が減少の一途をたどっている第3セクター・若桜鉄道の駅の一つだ。このひなびた田舎の駅が全国から注目を集めている。駅名とスズキ・ツリーリング・バイク「隼」のネーミングが一致し、「隼」ライダーが6年前から毎年8月に同駅に集結。これを機に、ライダー同士の交流イベントとして「隼駅まつり」が大々的に催され、国際的な交流に発展するなど、日ごろ静かな町に活性化の旋風が巻き起こっている。

若桜鉄道「隼駅を守る会」の事例



■活性化の端緒はライダー  
2008年8月、東京都千代田区隼町のライダーが「自分の住んでいる住所と同名の駅が鳥取県にある」と気づいたのをきっかけに来町。8月8日を「88（ハヤ）ブサの日」と命名し、バイク専門誌が「隼のオーナーは隼駅に集合！。記念写真を撮ろう」と呼び掛けたところ、大阪、神戸、岡山から7台のバイクが来町した。「来年もこの日（8月8日）に集まろう」と約束し合った。このライダーの企画こそ隼駅を全国に発

信する絶好のチャンスと、地元有志が2009年8月に「隼駅を守る会」（西村昭二会長、以下「守る会」）を結成。活性化を模索し『隼駅まつり』の開催にこぎつけた。

■「隼駅まつり」誕生

初のまつりには、北海道から沖縄県まで全国から100台が集結。「（バイクだけに）最初は暴走、騒音を心配しました」と西村会長。しかし、ライダーのオーナーもよく、回を重ねるごとに台数も増え、5回目（2013年）は、700台ものバイクが全国から参加。まつりが回を重ねるにつれ、ライダーたちにとって同駅への訪問が「聖地巡礼」として定着している。今では年間、隼ライダーが2500人、鉄道マニアが1000人訪れている。

■イベントで交流

まつり誕生5周年を記念し、同駅と姉妹駅提携した韓国の池灘（チタン）駅との交流を機に、韓国鉄道公社の社員と、又松（ウソン）大学・又松情報大

学で調理を専門に学ぶ学生ら17人も参加。韓国のお好み焼きと焼き餅を振る舞い、ライダーたちに喜ばれた。

また、鳥取大学の学生によるマジックショーをはじめ、地元傘踊り保存会による傘踊りや隼

地区の婦人による「隼音頭」や鉄道アイドルのミニライブなど、多彩なイベントを披露した。さらに、連続5回まつりに参加したライダーが表彰されるなど、ライダーと地元民が和気あいあいと交流した。





■乗車率アップの秘策  
2011年2月には、若桜鉄道と守る会が主催し、若桜―鳥取駅間を2往復する貸切の「カラオケ列車」を運行。約30人が乗り込んで約120分の旅を楽しんだ。「カラオケ列車の運行で利用促進を図りたい」と西村会長。さらに、「ビール列車」も運行、乗客に若桜鉄道の利用促進を呼び掛けた。

■観光資源の発掘  
守る会は、ライダーたちの休憩所と新たな名所を兼ねた列車の設置を企画し、一口千円でオーナーを募り、50万円の輸送費をねん出して北陸鉄道（金沢市）の電気機動車を2010年



12月に設置した。高知県から大阪まで走っていた寝台特急ブルートレイン「ムーンライト」の客車4両（20人宿泊可能）も所有する隣接の若桜町に依頼して設置した。以降、新名所の誕生が口コミで全国に広が

り、年間を通してライダーや鉄道ファンが来町するなど、観光振興の起爆剤として地域活性化が進んでいる。

また、かつての鉄道員の事務所を、バイク・車の関連グッズや旧国鉄時代の機関車のプレートや庶務規定綴りのほか、鉄道員の腕章などの国鉄グッズを販売する「把委駆」として改装。「聖地巡礼之証」目当てのライダーや多くの鉄道マニアに注目されている。



■乗車促進をアピール  
若桜鉄道を利用する同駅の日当たりの乗降者は、通学・通勤・通院者20人ほど。智頭急行や昨年全線開通した鳥取自動車道など重要なアクセスは全て国道53号（智頭谷）に集中している現状を念頭に「（時代の流れもあるが）逆に不便さを逆手にとったスロウライフ的な感のある若桜鉄道を見直す絶好の機

■新しい観光資源の開発  
また、駅舎の事務室を改装し、グッズを販売している売店「把委駆（バイク）」は、ライ

ダーや鉄道マニアたちの交流の場になっている。これまで、京都の女性ライダーや千葉県の児童が人工衛星「はやぶさ」の模型を寄贈。「はやぶさ」のネーミングは、バイクだけでなく人工衛星をはじめ、東北新幹線、客船、飛行機、糸川博士が命名した小惑星―と、新しい観光資源を発掘する糸口になっている。売店にいる西村会長を見つ

けると地元の乗降者や近所の人たちが立ち寄る。西村会長は「何気ない世間話の中に活性化に向けた新しい起爆剤的な発想がある」と話す。

### ■県が沿線存続構想

「隼駅」は1930年、旧国鉄若桜線として開通した延長19・2キロのローカル線の駅。レトロで古き良き往時の雰囲気醸し出す駅舎は2008年、文化庁から国の登録有形文化財の指定を受けた。また、平井伸治県知事が県議会で「路線ごと鉄道博物館でPRしては」と提案したのをきっかけに、若桜鉄道まるごとミュージアム構想が持ち上がった。沿線特有の田舎の原風景とあわせ、全国に向けたPRに取り組んでいる。その一環として、以前、アルミサッシだった窓枠をすべて木製に改装、改札口も80年昔のままに作り直す一方、同町の有志で組織している団体から寄贈された「案山子」が改札口で乗降者を見守っている。「観光客の誘致で沿線を存続させたい」と西村会長は話す。

### ■活動の成果

これらの活動の集大成として、2010年度にはいくつもの表彰を受けることになった。活性化で地域に貢献した団体を

顕彰する「イノベータータイプ・ポリシー賞」（法政大学）をはじめ、「鳥取県地域づくり大賞」、「鳥取力創造運動活動表彰」最優秀賞（いずれも鳥取



県)のほか、「地域再生大賞」(共同通信社)を受賞した。「これらの顕彰に恥じないよう、これからの地元が一丸となって、地道だが、しっかりと根を張った地元活性化策を講じていきたい」と西村会長。さらに「駅舎を核としたミニ鉄道公園の整備が大きな夢。さらに、山陰海岸ジオパークや鬼太郎ロードとの連携と、特産品の開発やスローライフをアピールした滞在型観光の振興も図ってきたい」と話している。



## 若桜鉄道「隼駅を守る会」

〈概要〉 ●所在地:八頭郡八頭町見槻中76(隼地区公民館内)  
●代表者:西村昭二  
●事業内容:隼駅まつり・地域活性化対策活動・地域清掃などのボランティア活動  
TEL・FAX 0858-72-1611 火水金(8:30~17:15まで)  
MAIL hayabusatikukou@town.yazu.tottori.jp



### 代表者のコメント

会長 西村昭二さん

若桜鉄道沿線の住民が各駅ごとにイベントを開催するなどして、これまで以上に鉄道を存続させる気運を盛り上げたい。沿線一帯に広がる田園を「癒やし」の原風景、と位置づけ、訪れる行楽客

たちにスローライフ的な風情を提供したり、果物などの特産物をもっと県内外の人にアピールしながら観光の振興を図っていきたい。